

吉田幸一編

近世文藝資料 12

長門子全集

第三卷

古典文庫刊

昭和四十八年六月五日印刷発行 限定版

非売品

長嘯子
全集
第三卷

編者兼
発行者
吉田幸一

印刷製本
帝都印刷製本株式会社

発行所

114 東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

凡 例

一、『長嘯子全集』全五冊の第三卷として彰考館蔵写本『挙白集』乾坤二冊を収めた。
一、本書は、乾卷文集・坤卷歌集より成り、刊本『挙白集』に対して、歌・文集ともに編成を異にし、異本として重要な伝本である。(第二巻「解説」参照) 奥書によれば、本文は下冷泉為景家蔵本である。また、慶安刊本と比較して、刊本不載の歌・文を抄出して、「挙白集補遺」を編み、本文に付載してある。

一、ここに彰考館本を収めるにあたり、左のような方法をとった。

- (1) 乾卷の文集は、底本を縮写複製し、坤卷の歌集は、歌番号をつけて、翻刻した。
- (2) 乾卷巻初の文集目録は、次頁に活字翻刻し、篇名の上には排列順に番号を付け、篇名の下には、「数字」で刊本の排列番号を施して、相方対照できるようにした。
- (3) 坤卷の歌集(重出歌を含み一三三四首)は、原文の通りに翻刻した。但し、刊本との校合による校異ならびに書入れは、本文と区別できるように、小活字で組んだ。なお、刊本による行間への詞書の書入れには、傍記の校異と区別できるように、括弧を施した。
- (4) 原文における誤写・誤脱は、原のまま翻刻して、右傍に(ママ)とした。但し、書写者が、自ら書写上気付いての脱字補入は、本文と認めた。
- (5) 歌集には、彰考館本歌番号と刊本歌番号を上記、「補遺」に抄出した歌には、その歌の下に補遺番号を付けた。
- (6) 坤卷歌集付載の「補遺」は、和歌は第一巻に、和文は第二巻に翻刻したので、本巻には省いた。

拳白集 乾

記類

〔刊本順番号〕

一	東山家記	〔一〕	三
二	又	〔二〕	二
三	西山家記	〔三〕	三
四	石枕記	〔四〕	四
五	見台記	異本ノ見台ノこと葉とハことなり (ナシ)	五
六	曳尾記	〔五〕	五
七	叩鉢記	〔六〕	五
八	心戒記	〔七〕	五
九	逆衣	〔八〕	五

一〇	ぬすみて木を植ることは	〔六〕	七四
二	人々来りて花みける時に	〔七〕	七九

序類

三	八月十五夜公軌鳴瀧の山亭にてよめる和哥のはしに	〔三〕	八七
---	-------------------------	-----	----

紀行類

三	秀吉公にしたかひて名護屋におもむける時	〔三〕	九一
四	東におもむきたまひける時	〔三〕	一五
五	又	〔四〕	二三
六	比叡山に登り給ける時	〔五〕	三三
七	花山におもむける時	〔三〕	四七
八	伊勢太神宮にまうてられける時	〔六〕	五一

贈答類

- 一九 將軍家御屏風のうためされける時玄治法印に遣しける〔二〇〕……………一五
- 二〇 稻葉内匠頭に遣しける……………〔二五〕……………一六
- 二一 松平越中守に遣しける……………〔二四〕……………一六七
- 二二 道春法印にこたへ侍りける……………〔三〇〕……………一七一
- 二三 那波道円に遣しける……………〔二六〕……………一七九
- 二四 天龍の真乘院に遣しける……………〔三三〕……………一八五
- 二五 惺窩先生からうた和して遣しける詞……………〔三三〕……………一九〇
- 二六 通女に遣しける……………〔二六〕……………一九二
- 二七 佐川田昌俊に答へ侍りける……………〔三三〕……………一九七
- 二八 惺窩先生の許に遣しける……………〔三三〕……………二〇〇
- 二九 惺窩先生の山莊東山のふもとにしめらるへきあらましありし比
をくり給ける……………(ナシ)……………二〇一

餞別類

- 三〇 惺窩先生紀伊国に下り給ける時遣しける……………〔三五〕……………二二一
- 三一 春日局の東にかへりたまひける時をくりける……………〔三六〕……………二一九
- 三二 永喜法印東へ下りける時遣しける……………〔三七〕……………二二七
- 三三 正意法眼東にまかりける時遣しける……………〔三八〕……………二三一
- 三四 那波道円肥後国にまかりける時遣しける……………〔三九〕……………二三七
- 三五 木下宮内少輔へ遣しける……………〔四〇〕……………二四三

哀傷類

- 三六 後陽成院崩御の時つかうまつれりける……………〔三七〕……………二四五
- 三七 朝日殿身まかりたまひける時……………〔三八〕……………二五一
- 三八 木下二位法印身まかれりける時……………〔三九〕……………二五七

三九	玄旨法印身まかれりける時	〔四〇〕	二六七
四〇	惺窩先生をいためる詞	〔四一〕	二七七
四一	稻葉丹後守身まかれりける時	〔四六〕	二九三
四二	馬鬣松	〔四五〕	三〇三
四三	林叔勝身まかりける時	〔四八〕	三三三
四四	道円妻にをくれける時	〔四七〕	三四一
四五	二位法印三十三回忌に	〔三九〕	三四三
四六	妙貞大姉を夢見給ひける時	〔四九〕	三四五
四七	娘にをくれたまひし比	〔四四〕	三四七

雑類

四八	公軌家にかくせる家隆卿の一軸に	〔五一〕	三五七
四九	堀田加賀守にかきてあたへられし詞	〔三八〕	三五九

吾	玄琢法印にかきてあたへられける……………(ナシ)……………三六一
五	三竹法眼へあたへける……………〔一九〕……………三六三
五	なにかし清兵衛にあたへらる……………〔四〕……………三六五
五	椎ひろふとてかける……………〔九〕……………三六六

拳白集 坤

歌集……………	三六九
---------	-----

追補・訂正(第一・二卷分)……………	三七
--------------------	----

舉白集

乾

巳

八

力

あまのこゝろのこゝろをこゝろのこゝろに
もやまのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに
こゝろのこゝろにこゝろのこゝろに

な家あるらうか——く——おそく家とせよと
とあるらうか 粹なるらうか ^得 家いその方
かたるらうか——かたはらへしとねよとらうか
そよひいじりしるし——いよひいじりし 杜英を
いよひあるく——いよひあるとそよひいじりし
く——く又いよひあるとあるらうか——いよひ
あるらうか——いよひあるく——いよひあるらうか
いよひあるらうか——いよひあるらうか——いよひ
あるらうか——いよひあるらうか——いよひあるらうか
いよひあるらうか——いよひあるらうか——いよひあるらうか

